

里地里山保全・再生の特征的取組 個票 A (対象地域の概況)

|       |       |         |        |       |         |         |
|-------|-------|---------|--------|-------|---------|---------|
| NO.68 |       | 弘前だんぶり池 | 生物地理区分 |       | ミズナラ林   |         |
|       |       |         | 地域区分   |       | 都市周辺    |         |
| 所在地   | 都道府県  | 青森県     | 地形条件   | 1.山地  | 2.山麓部   | 3.丘陵・台地 |
|       | 市町村   | 弘前市     |        | 4.低地  | 5.その他   |         |
|       | 集落名称等 | 坂本字赤沢   | 環境要素   | 1.二次林 | 2.草地    | 3.水田    |
|       |       |         |        | 4.畑   | 5.小川・水路 | 6.ため池   |
|       |       | 7.池沼・湿地 |        | 8.社寺林 | 9.人工林   |         |
|       |       | 10.その他  |        |       |         |         |

環境要素(対象とする地域に含まれる環境要素)

:面積割合が最大のもの :それ以外の環境要素

|  |                          |
|--|--------------------------|
| 自然環境・景観保全、国土保全関連の法指定状況   | 自然環境、景観、文化等の観点からの選定・評価   |
|  | 「田園自然再生活動コンクール」受賞(平成19年) |
| 特徴的な動植物や生息環境   | 対象地の景観の現状                |
| 40種近いトンボのほか、ゲンジボタルやヘイケボタルなどの昆虫類、カエルやサンショウウオなどの両生類なども確認されている。周辺ではニホンカモシカ、サル、テン、ノウサギ、リス等も確認。 | 写真集などの出版物がある             |



撮影時期：H16年  
 写真の説明：だんぶり池。整備後のカナコ池(やち)全景(弘前市HPより)  
 だんぶり池(だんぶりとは、津軽弁でトンボ)は、水深や形態に多様な変化を持たせた池の総称で、人による管理を最低限に抑え、自然の力による再生・復元を目指して整備されたビオトープである。  
 カナコ池(カナコとは、津軽弁でイトトンボ)は、沢水が直接流入してくる池で、イトトンボ類のトンボが羽化する池である。  
 池の中央に木道を整備し、生物観察をしやすい環境を整えている。

撮影時期：H18年  
 写真の説明：野外観察会(弘前市HPより)  
 市民による環境組織「ひろさき環境パートナーシップ21」の主催で、定期的に動植物の観察会を開催し、都市住民などにとって、自然とのふれあいの場となっている。

|       |       |         |  |       |                    |
|-------|-------|---------|--|-------|--------------------|
| NO.68 |       | 弘前だんぶり池 |  | 取組主体  | 1.地域コミュニティ(集落・組合等) |
| 所在地   | 都道府県  | 青森県     |  |       | 2.団体・企業・学校等        |
|       | 市町村   | 弘前市     |  |       | 3.行政による支援施策の活用     |
|       | 集落名称等 | 坂元字赤沢   |  |       | 4.多様な主体が参加・連携する組織体 |
|       |       |         |  | 5.その他 |                    |

|                      |   |   |                    |
|----------------------|---|---|--------------------|
| 取組主体                 | 主な主体の名称   | ひろさき環境パートナーシップ 21 (市民による環境組織)                       |                    |
|                      | その他の主体の名称   | 行政  |                    |
| 目的<br>: 主<br>: その他   | 1. 農林業を通じた里山や草地の利用(管理)の維持・活性化(伝統的なものも含む)  |   |                    |
|                      | 対象・取組内容   | 休耕田を市で買収しビオトープとして整備。整備はひろさき環境パートナーシップ 21 が主体となって実施。 |                    |
|                      | 支援措置  |   |                    |
|                      | 3. 環境教育や自然体験、エコツーリズムの場としての利用  |   |                    |
|                      | 自然観察会   | *   | 家族野遊び会(家族単位での生物観察) |
|                      | 環境教育・学習活動   | *   | 地元中学生による体験活動       |
|                      | 里地里山体験・環境保全   |   |                    |
|                      | 農林業体験活動   |   |                    |
|                      | エコツアー   |   |                    |
|                      | その他   |   |                    |
| 4. 野生動植物やその生息地の保全・管理 |   |   |                    |
| 取組内容                 | 貴重なトンボ等が残っていた休耕田を対象にビオトープづくり  |   |                    |
| 5. 地域の良好な景観の保全・修復    |   |   |                    |
| 取組内容                 | ビオトープとして整備。   |   |                    |
| 連携・協働による取組内容・役割分担等   | 平成 12(2000)年に策定された「弘前市環境基本計画」の重点施策である「自然環境の復元」を具体化するため、貴重なトンボ等が残っていた休耕田を対象にビオトープづくりを開始。その中で「ひろさき環境パートナーシップ 21」が設立され、市との間で環境パートナーシップ協定を締結した。<br>行政はハード面の準備(土地や資材など)を行い、市民は整備作業を実施し協働により取り組みを行っている。 |   |                    |
| 取組の特徴や強調したい点         | 平成 14(2002)年 3月に、市民による環境組織「ひろさき環境パートナーシップ 21」と市が環境パートナーシップ協定を締結し、市民・事業者・行政が協働して、休耕田を対象にビオトープづくりを始めた。<br>そのビオトープでは、地元小中学生がビオトープ整備作業を手伝ったり、生物観察を行うなど、環境教育の舞台ともなっている。                                |   |                    |

|                  |   |                                  |
|------------------|---|----------------------------------|
| 取組の概要            | 中山間地耕作放棄水田におけるビオトープ造成、トンボやメダカ等が復活   | 課題グループ<br><br>野生生物<br>学習体験<br>手法 |
| 事例の特性            | 野生動植物の生息環境づくり   |                                  |
| 取組の中で他の地域の参考となる点 | 市民・事業者・行政が協働して、貴重なトンボ等が残っていた休耕田を対象にビオトープづくりを始めた。現在は補修作業や草刈作業等の維持管理を行うとともに、ホタル観察会など自然学習の場等として活用している。 |                                  |